

2. 千束古墳群発掘調査報告

1. はじめに

今回の調査は、府道網野峰山線幹線道路改良事業に伴い、京都府土木建築部の依頼を受けて実施したものである。千束古墳群は京丹後市峰山町石丸千束谷に所在する。

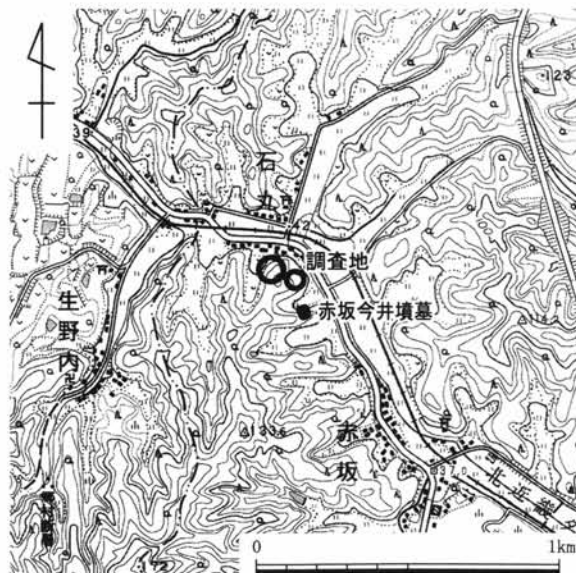
調査地は東西二つの尾根部にまたがり、西側尾根調査区に4か所、東側尾根調査区に3か所の古墳状隆起の存在を確認し、古墳の存在を確認するために試掘トレンチを設定し調査をすすめた。その結果、西側尾根調査区からは古墳を2基検出したが、東側尾根調査区では古墳の存在が確認されず、炭窯跡を検出したのみであった。なお、東側尾根調査区の上部に千束古墳群1～4・7号墳があるが、これらは調査範囲外である。

調査を担当したのは当調査研究センター調査第2課課長補佐兼調査第3係長石井清司、調査第1係長小池寛、主任調査員引原茂治・森島康雄、専門調査員黒坪一樹である。

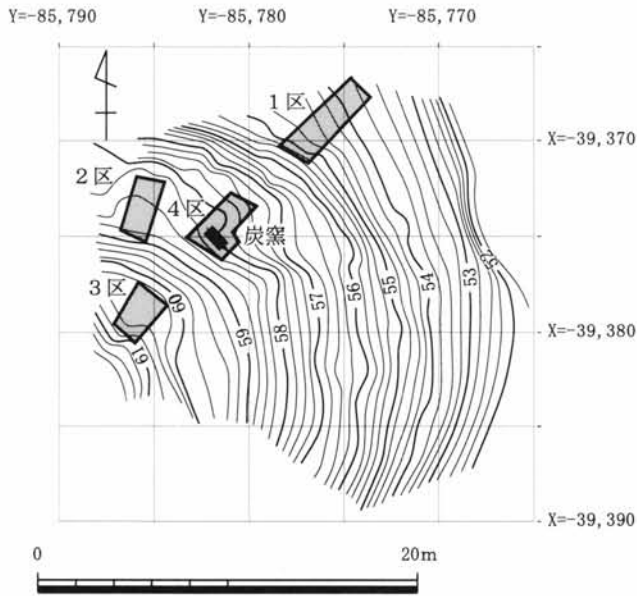
調査にあたっては、京丹後市教育委員会、京都府教育委員会、京都府立丹後郷土資料館、地元自治会をはじめとする関係諸機関からご協力、ご指導いただいた。また、多くの方々から専門的なご教示をいただいた。現地調査にあたっては、地元有志の方々に参加していただいた。衷心より御礼申し上げたい。現地調査は平成19年8月21日～12月6日で、調査面積は380m²である。調査にかかる経費は全額、京都府土木建築部が負担した。

2. 位置と環境

千束古墳群は、狭小な谷筋に面した尾根上に立地する。狭小な谷筋ながら、ここは網野銚子山古墳や浅後谷南遺跡などの遺跡群が展開する福田川水系の潟湖周辺と、竹野川支流の中郡盆地の平野部を結ぶ境界点にあたり、両地域を行き交う古代の道の要衝といえる。周辺には、調査地南東に小さな谷ひとつ隔てて、玉類による頭飾りなどの豪華な副葬品を出した弥生時代後期末の赤坂今井墳墓、その南東に特殊扁壺を出土した横穴式石室をもつ今井古墳(6世紀)、さらに調査地北東部には古墳時代中期から後期のホエケ谷古墳群(5～6世紀)などの調査例がある。その他にも未調査の古墳が非常に多く点在する地域である。古墳のほかには山城跡が知られているが、集落跡は狭小な谷部であるため現



第1図 調査地位置図
(国土地理院 1/25,000 峰山)



第2図 東尾根地区調査区配置図

の埋葬施設を検出した。また5号墳の上位に狭いながらも平坦面が2か所あり、その部分も試掘トレンチを設定して調査を進めたが、古墳の造作にともなう人為的な地形の改変は確認できなかった。東側尾根調査区でも古墳状隆起部分にトレンチを設定して試掘調査を実施したが、炭窯跡を検出したのみで、古墳は存在しなかった。

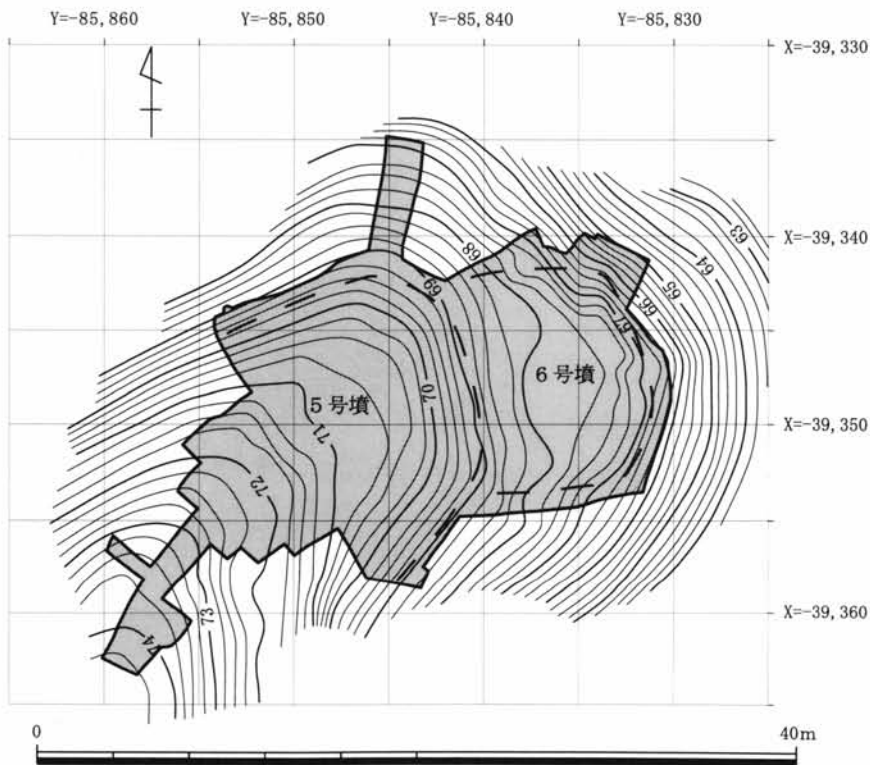
(引原茂治・黒坪一樹)

在のところで発見されていない。なお、今年度発掘調査を実施した弥栄町谷奥古墳群では千束5号墳と同時期の古墳が17基調査されている。

3. 調査の経過

現地調査では調査地の樹木伐採を行った後、掘削前の調査地の測量図を作成するため、空中写真撮影および図化作業を実施した。その後、人力により表土掘削にとりかかった。その結果、西側尾根調査区において、5・6号墳として確認されている地点で、2か所

4. 調査の概要

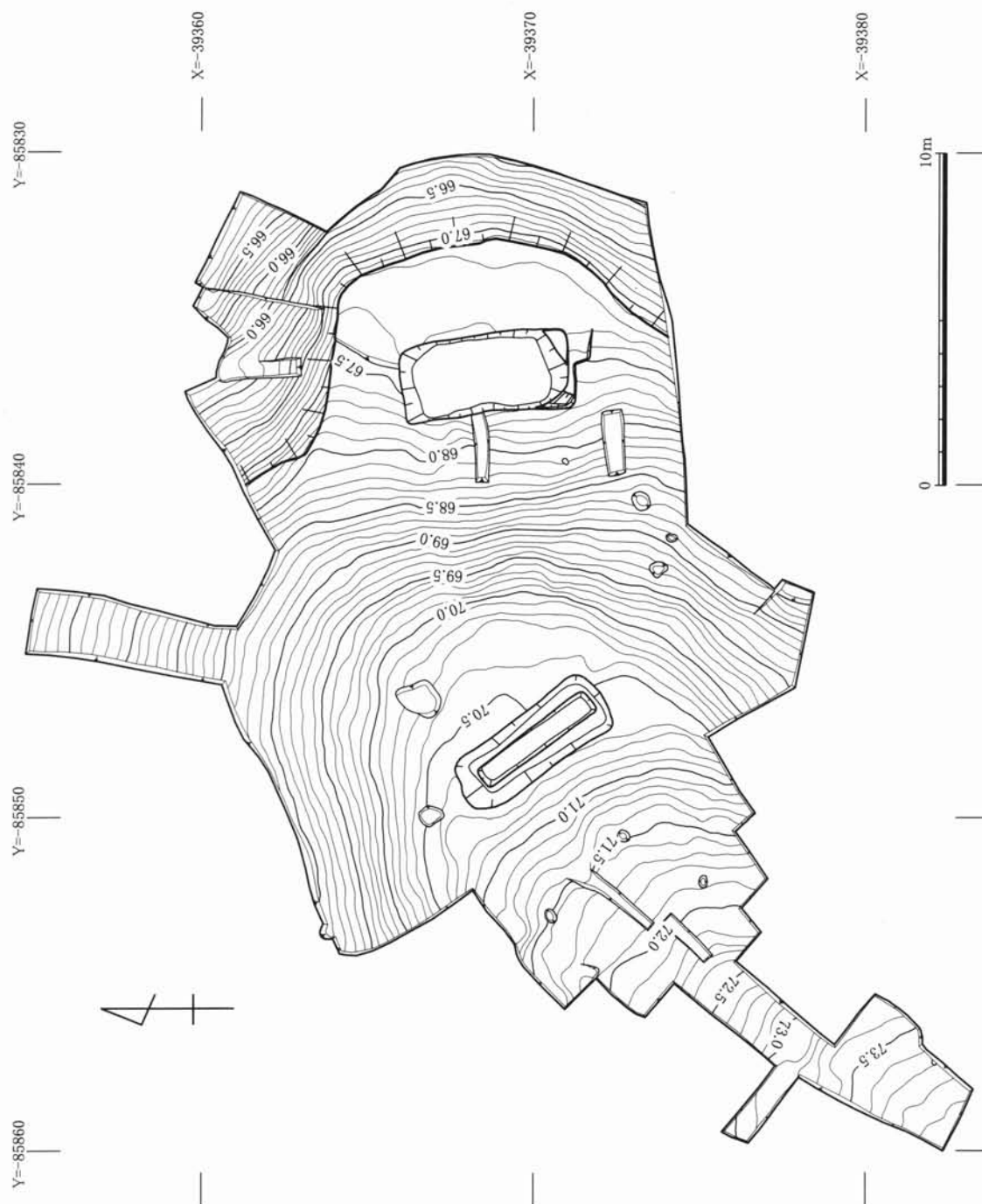


第3図 西尾根地区調査区配置図

A. 検出遺構

(1) 5号墳

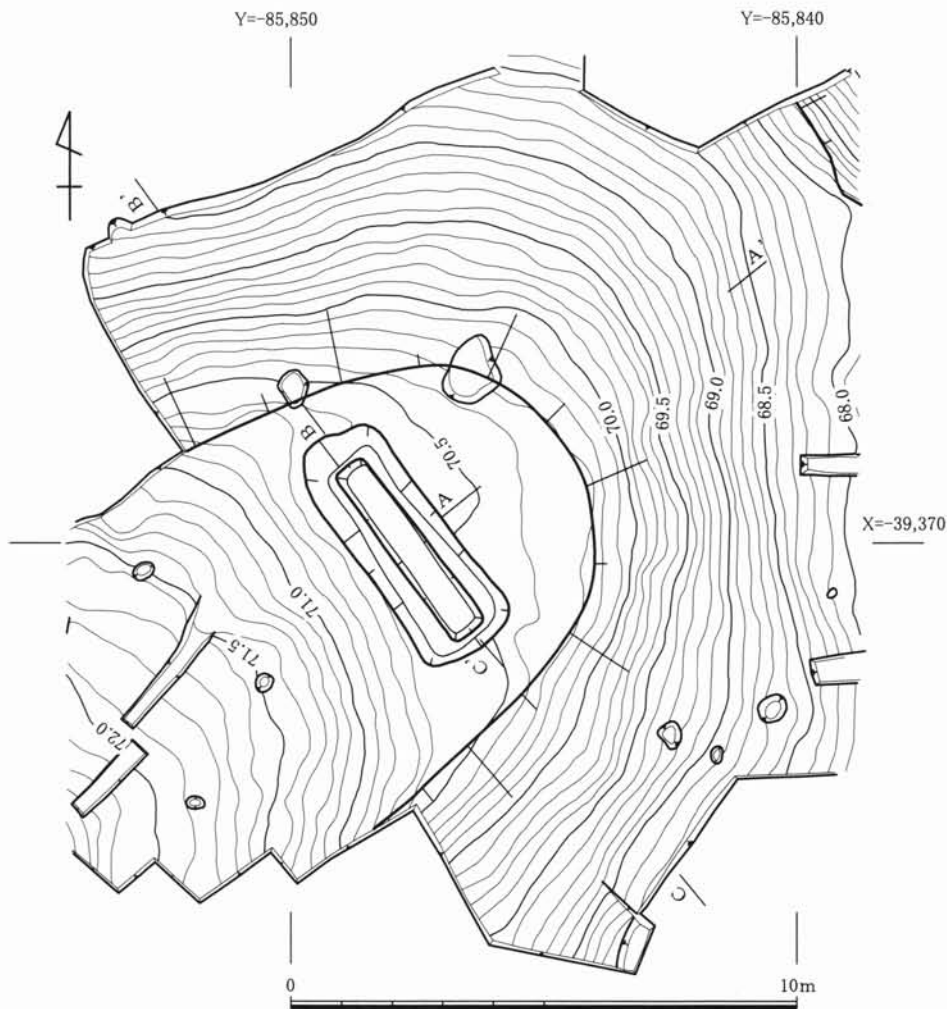
5号墳は、尾根筋を整形した小規模な古墳である。墳頂部に埋葬施設を設け、箱形木棺を埋納する。埋葬施設の主軸は北西から南東方向であり、遺体の頭位は北西側とみられる。推定頭部位置の東側から銅鏡、玉類、鉄製品が出土した。西側からも玉類が



第4図 5・6号墳平面図

出土した。この古墳の築造時期は5世紀前半頃と考えられる。

a. 墳丘 墳形は、直径13mの半円形状であり、円墳を意識しているものとみられる。尾根上部側には、尾根線を断ち切って墳丘を画するような区画溝はない。下部側にも明瞭な裾部は確認できない。墳頂部東側縁辺部には盛土の痕跡とみられる堆積層がわずかに残る。傾斜地のため、盛土が流失したものとも考えられるが、基本的には盛土は薄く、地山の削り出しによって墳丘を築造しているものとみられる。現況の黒色腐植土の表土下は、黄灰褐色系の粘質土および砂質土が20~25cmの厚さで堆積し、その下から埋葬施設1基を検出した。

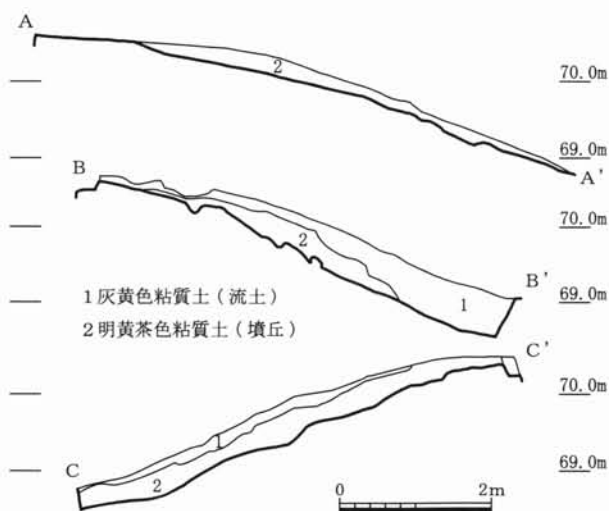


第5図 5号墳墳丘平面図

b. 埋葬施設

頂部平坦面の西寄りで木棺直葬の埋葬施設1基を確認した。主軸は尾根ラインにはほぼ直交する。主軸方位は北西から南東を示し、 $N - 35^{\circ} - W$ となる。掘形は、長辺側は2段に掘り込むが、短辺側には明瞭な段は見られない。規模は、長さ5.2m、幅2.1m、深さ1.0mを測る。

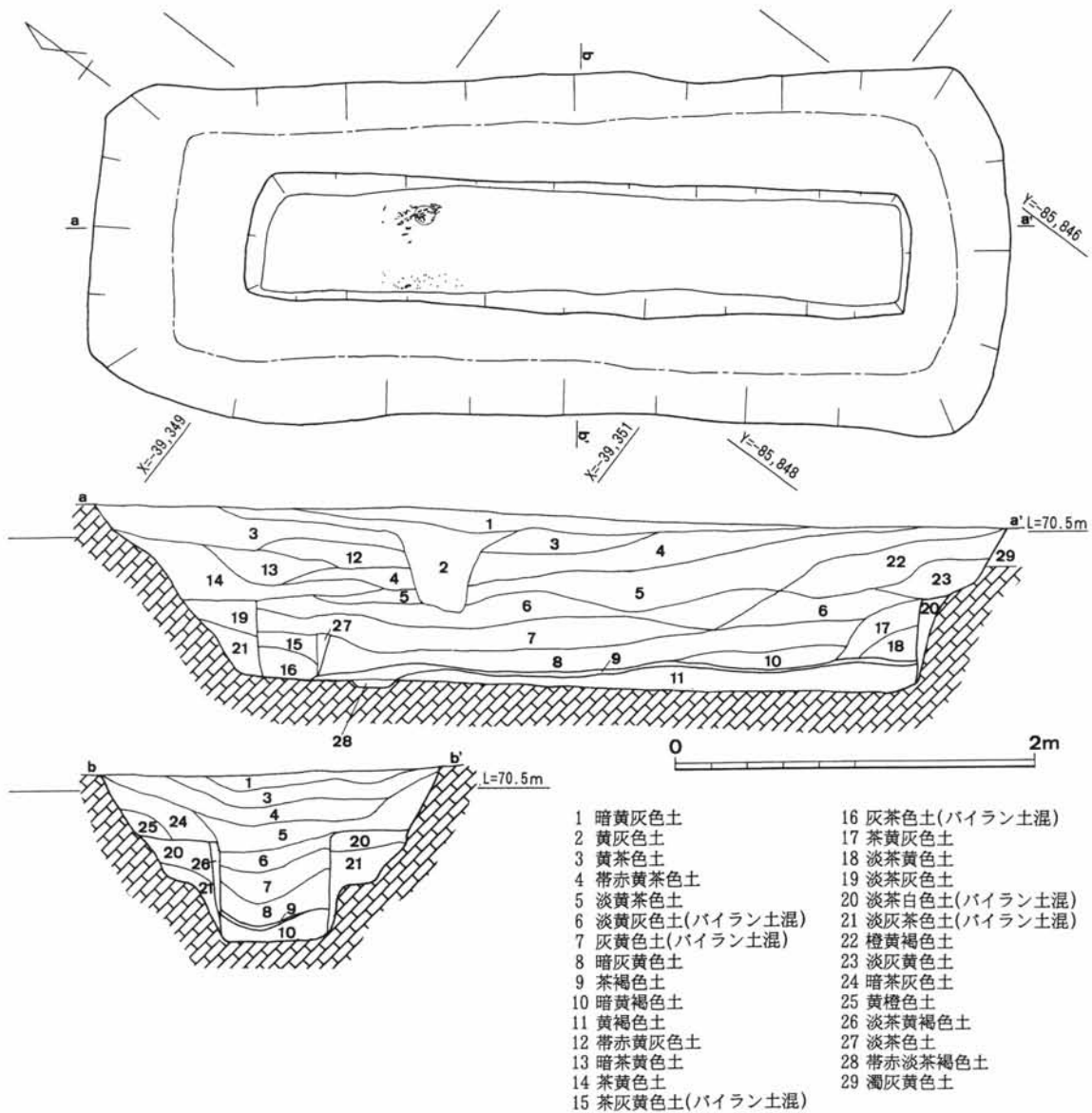
この埋葬施設



第6図 5号墳墳丘断面図

では、明確な棺痕跡は確認できなかったが、断面観察により、組合せ式木棺を埋納していたものと考えられる。埋葬施設底部北西端から0.7mの地点で、木口板を差し込んだ痕跡とみられる掘り込みが確認できた。棺の規模は推定長3.65m、幅0.6m、推定高0.6mを測る。副葬品の出土状況から、北西が頭位と考えられる。また、頭部位置と考えられる部分には、薄い赤褐色の顔料の痕跡が残存していた。顔料は酸化第二鉄(ベンガラ)とみられる。

c. 遺物出土状況 出土遺物は、銅鏡、装身具(玉類)および鉄製品である。これらの遺物は、被葬者の推定頭部位置とみられる北西側から出土した。頭部位置を示すとみられる赤褐色顔料の残存部分の東西両側に分布しており、頭側に副葬されたものと考えられる。



第7図 5号墳埋葬施設実測図



第8図 5号墳埋葬施設内遺物出土状況図

東側からは、銅鏡、玉類、鉄製品が出土した。銅鏡は、鏡面を上にし、南側にやや傾斜して出土した。鉄製品は、銅鏡の上に錆付いた状態で出土した。玉類は、ほとんどが銅鏡周辺の上部から出土しており、これらの中には勾玉3点が含まれる。勾玉は、翡翠製2点、碧玉製1点である。勾玉以外には、管玉、白玉、棗玉などが出土している。銅鏡下部からも白玉などが出土している。

西側からは、玉類が出土した。棺の長側板に沿うような状態で出土している。玉類には、碧玉製勾玉1点やガラス製小玉3点が含まれる。西側から出土した玉類の多くは白玉であり、細身の管玉が少量含まれる。

以上のように、特に玉類の出土状況や内容には、東西で相違がみらる。2種類の装飾品が副葬されたものとも考えられよう。(引原茂治・黒坪一樹)

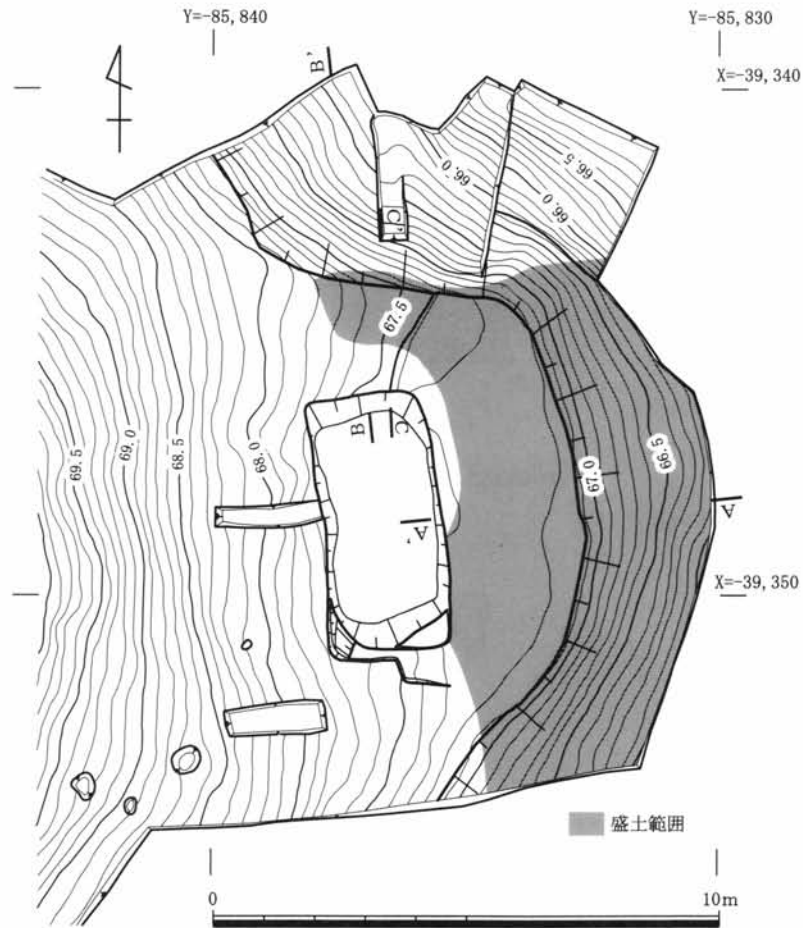
(2) 6号墳

6号墳は、5号墳の東下方に延びる尾根上に立地する小規模な古墳である。墳頂部平坦面の標高は67~68mで、5号墳との比高差は約3mを測る。墳頂部に埋葬施設を設け、組合せ式の箱形木棺を納める。埋葬施設の主軸は、座標北から西に約8°振っている。木棺内の土器枕の状況から、棺内には北頭位と南頭位の2体が埋葬されていたと考えられる。北頭位の被葬者の土器枕付近からは鉄鎌などの鉄製品と銅釦が出土し、南頭位の被葬者の土器枕付近からは須恵器杯身・杯蓋が組み合わさった状態で出土した。また、墓壙上からは須恵器甕・ハソウ・短頸壺が出土した。この古墳の築造時期は、出土した須恵器の特徴から6世紀前半と考えられる。

a. 墳丘 この古墳は墳頂部の東辺と北辺を直線的に成形して一辺約10×7mの方形の平坦面

を造成していることから、方墳を意識しているものと思われる。しかしながら、墳丘裾は不明確で特に傾斜変換点を持たないまま尾根の斜面に続いている。

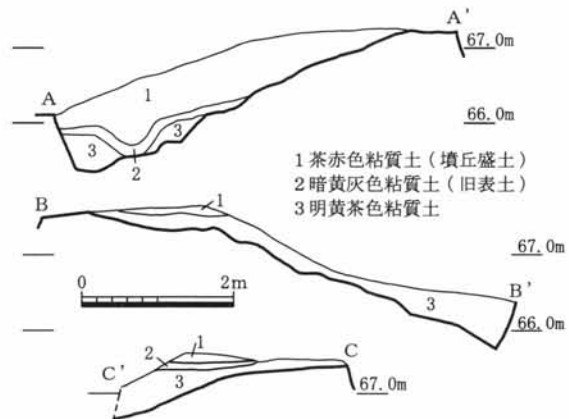
層序は約10cmの表土と約20cmの灰黄色粘質土を除去すると地山が現れるが、墳頂部平坦面の東半分は盛土して成形しているので、茶赤色粘質土の盛土が現れる。盛土範囲の一部では茶赤色粘質土の盛土の下に暗黄灰色粘質土の旧表土が残っている。盛土の厚さは最大0.9mを測る。6号墳墓



第9図 6号墳墳丘平面図

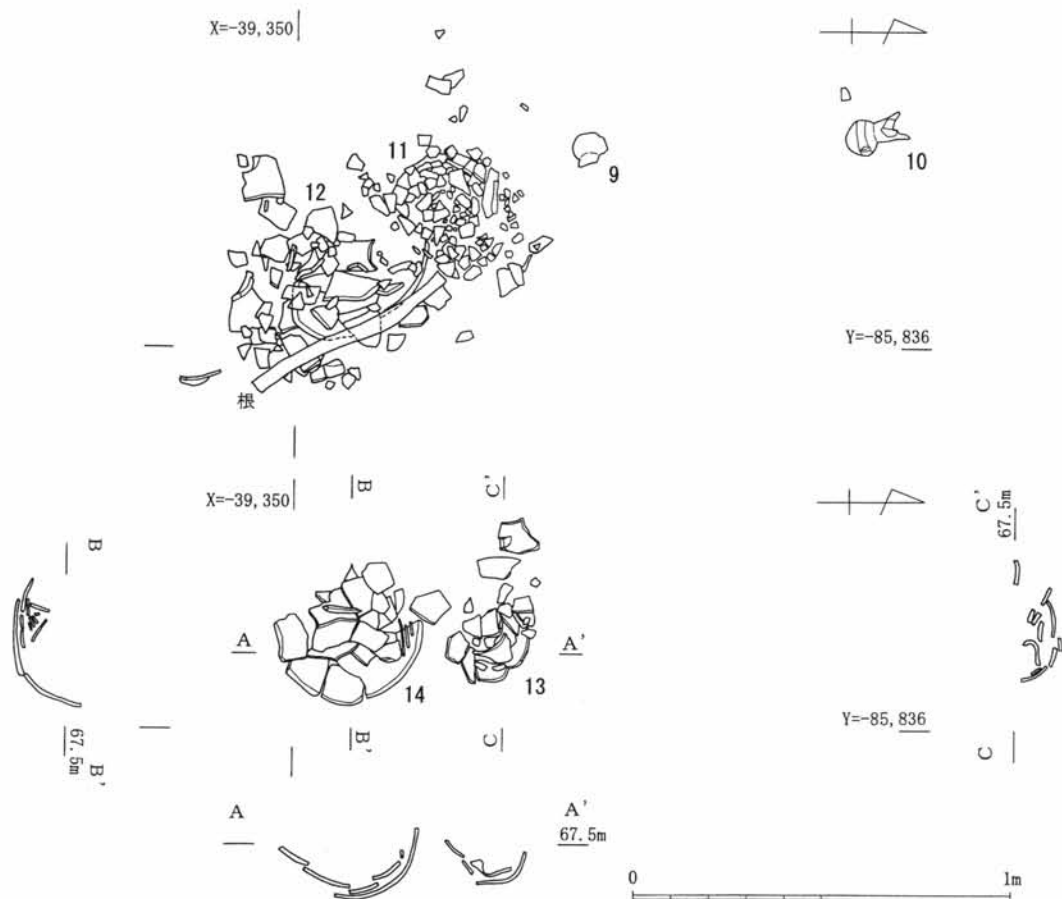
たと考えられる茶赤色粘質土が幅約3mで南北に帯状に延びており、この土を削って盛土に用いたものと考えられる。この削平により、5号墳の墳丘の一部が直線的に削られている。

b. 埋葬施設 墓壙は墳頂部平坦面の中央で1基検出された。墓壙の規模は5.1×2.3mを測る。掘形は一部が盛土上面から切り込まれているが、大半は地山を切り込んでいる。深さは最大0.8mを測る。「H」形の平面形を呈する木棺の痕跡を確認し、長側板の間に小



第10図 6号墳墳丘断面図

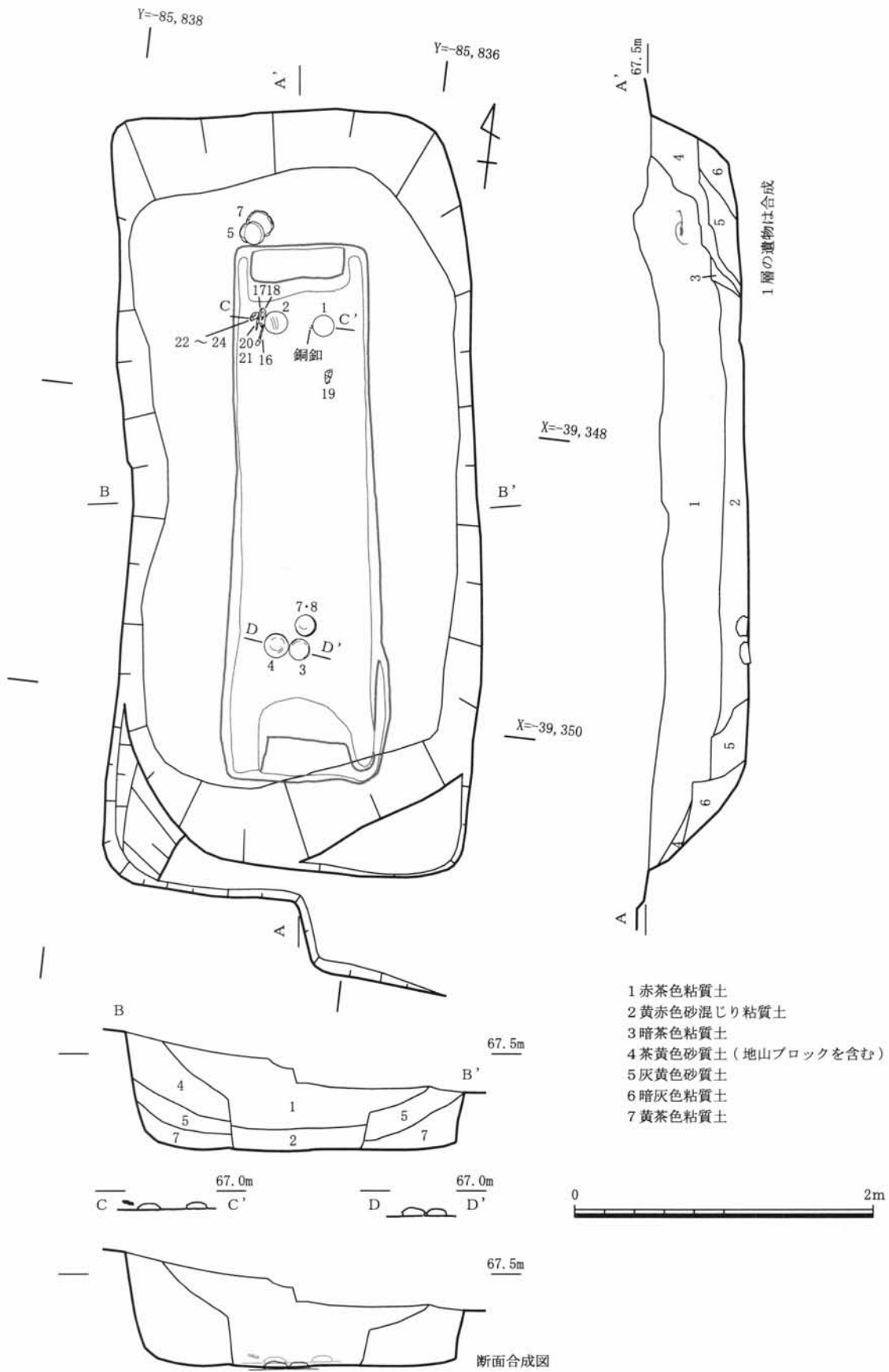
口板が挟まる構造の組合せ式木棺であることが判明した。木棺の外法は長さ約3.6m、幅は、北端で約0.9m、南端で約1.0mを測る。木棺の裏込めは、下から黄茶色粘質土、灰黄色砂質土、茶黄色砂質土が入られる。北の小口に認められた暗茶色粘質土は小口板が土壌化したものかもしれない。墓壙底は北側が南側より約4cm高い。木棺内部は下から黄赤色砂混じり粘質土、赤茶色粘質土が堆積している。前者は木棺内に流入して堆積した土で、後者は木棺が腐食したあとに墳丘盛土が崩落したものと考えられる。墓壙北部の赤茶色粘質土から、須恵器杯身・杯蓋が出土し



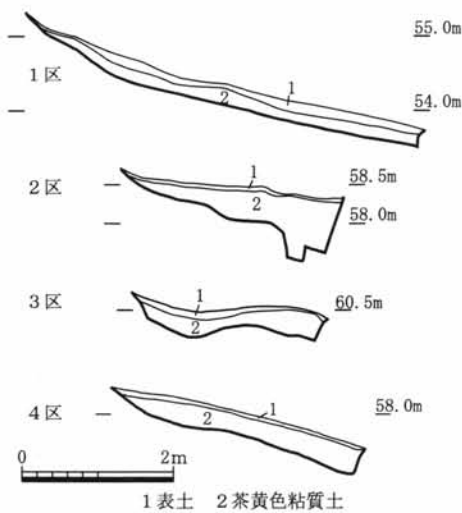
第11図 6号墳墳丘上面遺物出土状況図

た。これらは、木棺内に崩落した際に破損して互いにややずれているが、盛土内に組み合わせて埋められていたものと考えられる。赤茶色粘質土の上には灰黄色粘質土が堆積しているが、この層から須恵器甕・短頸壺・ハソウなどが出土した。須恵器甕は大・中・小3個体あり、南に大甕、北に小甕が並び、大甕の上から中甕が出土した。短頸壺、ハソウはやや離れた位置で、中甕に近い高さで出土している。大小の甕の底部は赤茶色粘質土に達しており、墳丘盛土上面に据えられていたものと思われる。なお、中甕の北西に隣接して、土師器鍋が口縁部を下にして出土した。平安時代後期頃のものと思われる。口縁部がほぼ水平に完周していることから、木棺陥没後にこの場所に据えられたものと思われるが、掘形は検出できなかった。3個体の甕の中では中甕の残存率が最も低いが、失われた破片の多くはこの際に散逸したものと思われる。

c. 棺内遺物出土状況 墓壙底面の北部と南部で須恵器杯身・杯蓋を口縁部を下にして並べた土器枕が出土した。北枕と南枕の2遺体が埋葬されていたと考えられる。北の土器枕は約16cmの間隔をあけて東側に杯蓋、西側に杯身が並べられている。東側の杯蓋に接して銅釦と思われる半球形の銅製品が出土し、西側に置かれた杯身の西に接して鉄鎌・刀子・鉄鐸が出土した。また、東側の杯蓋から南に10cm余りのところで鉄鎌が出土した。南の土器枕は東側に杯蓋、西側に杯身がほぼ接して並べられている。杯蓋は南側が墓壙底にめり込むようにやや傾いている。杯身の北側にほぼ接して須恵器杯身・杯蓋が組み合わされた状態で出土した。杯身の底は墓壙底からわずかに離れており、元位置を保っていない可能性がある。杯内からの出土遺物はない。



第12図 6号墳埋葬施設実測図

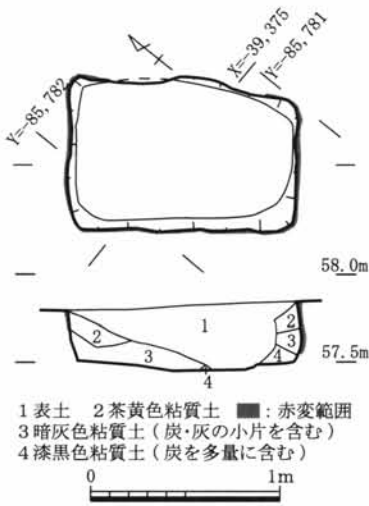


第13図 東尾根地区断面図

東尾根では4か所で調査を行った。層序はいずれも表土の下に茶黄色粘質土が堆積している。古墳が造られていた形跡はなく遺物も出土しなかったが、4区で長方形の土坑を検出した。壁の上部が赤く焼けており、底部付近には灰に混じって炭が出土した。出土遺物がなく時期は不明であるが、表土が深くまで入り込んでおり、近代以降の炭窯と考えられる。(森島康雄)

B. 出土遺物

(1) 5号墳出土遺物



第14図 炭窯実測図

a. 銅鏡(第15図) 出土鏡は、直径10.5cm、縁部の厚さ0.3cmを測る小振りな銅鏡である。鏡背には、外周に、外から内側に向かって傾斜する無文の斜縁が巡る。その内側には、鋸歯文帯、複線波文帯、さらに鋸歯文帯、櫛歯文帯が巡る。その内側には図像が表される文様帯が巡り、中心には、2条の圈線を巡らした鈕がある。

文様帯は、乳4個によって4区に区画される。鈕を挟んで対向する2つの区画には、神と侍者とみられる2体並列の図像が、それぞれ表されている。ほかの2区画には、龍と虎とみられる獣像が表される。このように2組の神像と2体の獣像が表出されており、「四神二獣鏡」とみられる。

この鏡では、文様帯の幅が狭く、図像が省略、デフォルメされて不明瞭になっている。したがって、この鏡は、中国鏡に倣って日本で作られた仿製鏡と考えられる。このような鏡は、古墳時代中期初頭から前葉頃に製作されたものと考えられている。

(引原茂治)

b. 玉類(第16図) 玉類には、勾玉4点、管玉44点、棗玉1点、ガラス小玉3点、白玉109点(内、破損品8点)がある。個々の法量・特徴は一覧表に示したとおりである。

勾玉は4点ある。材質は透明感のある翡翠製が2点、碧玉製が2点で、いずれも質・残存状況とも優良品である。穿孔方向は翡翠製の勾玉4のみ両側からで、残り3点は片側穿孔である。碧玉製の勾玉2は厚みをもち形も比較的精美に整ったもので、5世紀後半から6世紀代にはいってもみられるものであるが、翡翠製勾玉1・4は5世紀前半頃と考えられる。

管玉は、濃緑色で良質の碧玉を素材とするもの12点、淡緑色の緑色凝灰岩(グリーンタフ)製とみられるもの29点、さらに黒色で蛇紋岩製とみられるもの3点がある。穿孔方向は8の片側穿孔

を除き、すべて両側穿孔である。

棗玉は1点ある。鉄分の付着が著しいが、碧玉製とみられる。

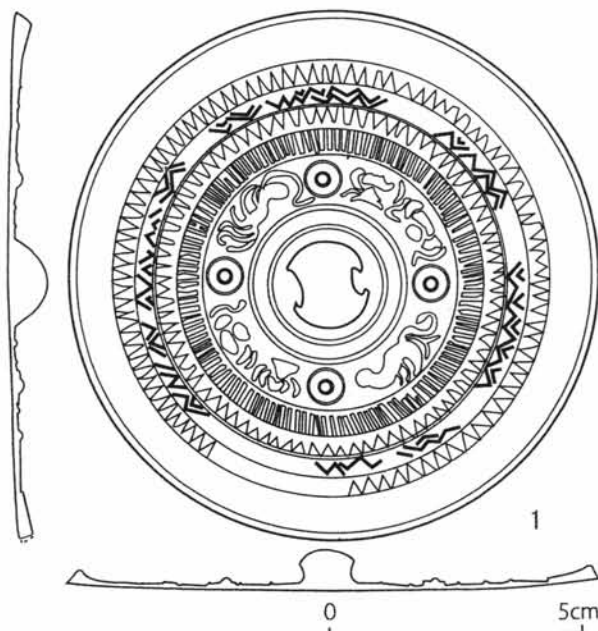
ガラス小玉3点のうち、15・16の2点は紺色のガラス製、17は青色のものである。17は扁平で形状は算盤玉に似る。

白玉はほとんどが滑石製であるが、蛇紋岩製とみられるものが6点ある。

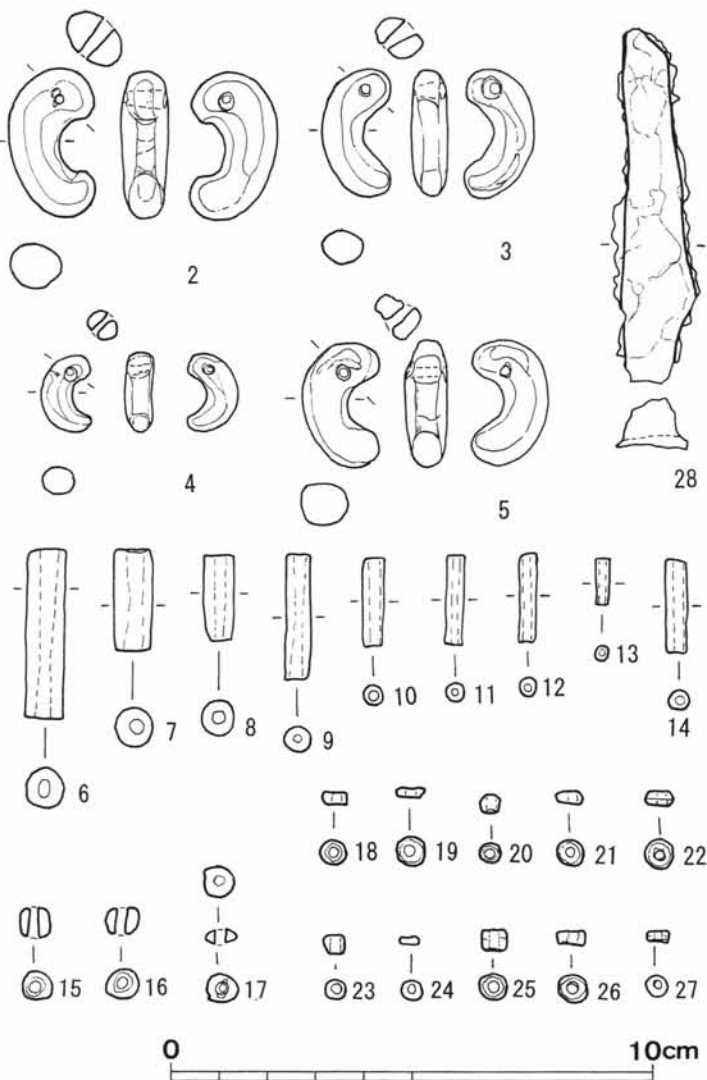
c. 鉄製品(第16図) 1点のみ出土した。銅鏡の上から出土したもので、残存状態が悪く、器種は特定できない。長さ7.4cm、最大幅1.8cm、最大厚さ0.15～0.25cmを測る。素材は薄く、縁辺が鋭利な点から、刀子または鎌形鉄製品と考えられる。(黒坪一樹)

(2) 6号墳出土遺物

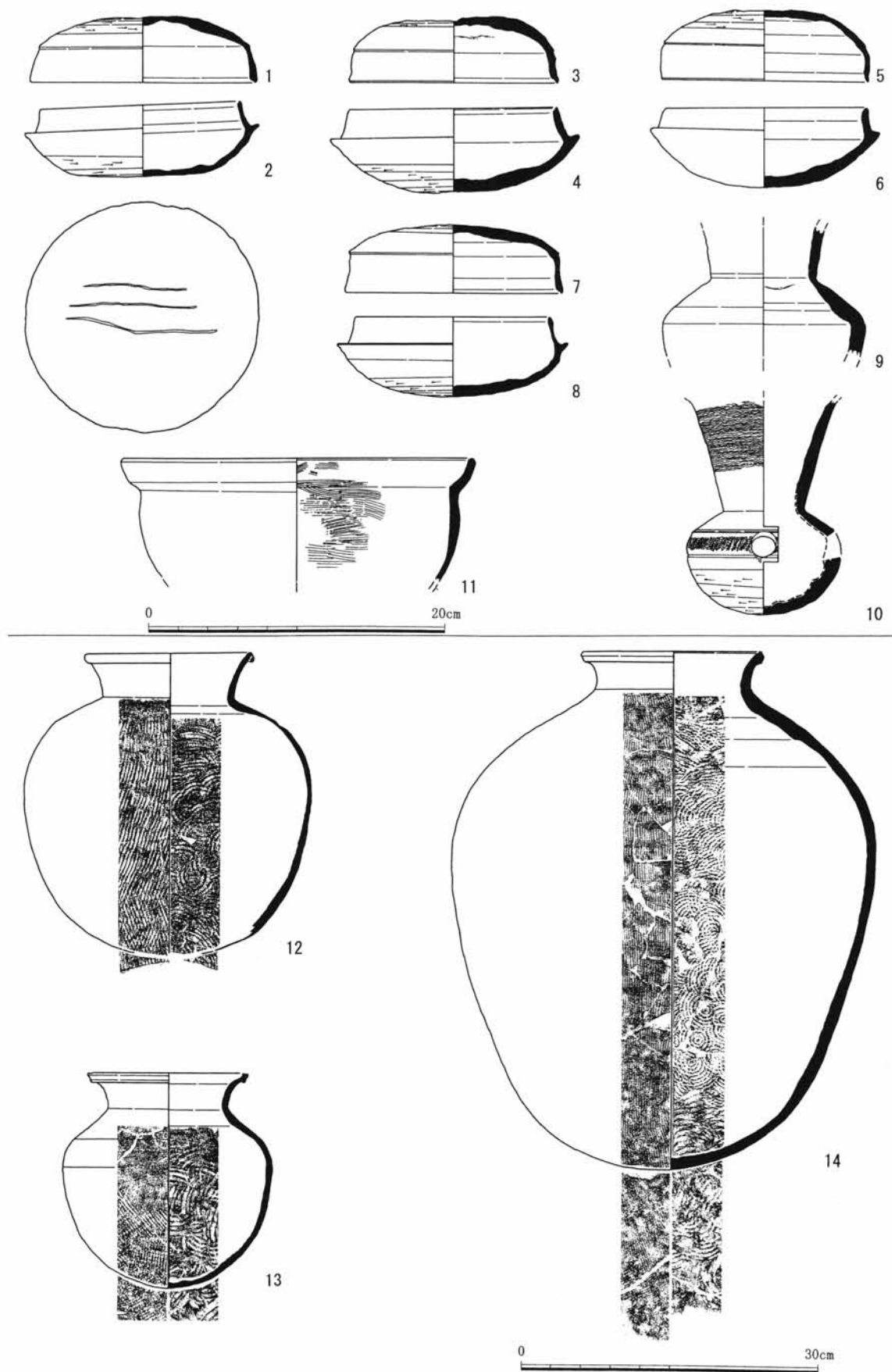
a. 土器(第17図) 1・2は北の土器枕に使われていた須恵器杯身・杯蓋である。杯身の底部外面に3条のヘラ記号が刻まれている。3・4は南の土器枕に使われていた須恵器杯身・杯蓋である。5・6は赤茶色粘質土から出土した須恵器杯身・杯蓋である。杯身は焼成が極めて甘く、灰黄色を呈し、器表面の磨滅が著しい。7・8は南の土器枕に近接して出土した須恵器杯身・杯蓋である。9～14は墳丘盛土上から出土した。9は短頸壺、10はハソウである。10の口縁部は一様に失われており、意図的に欠かれたものと思われる。11は土師器鍋である。口縁部は完存している。体部内面に粗い横方向のハケ調整を施し、受け口の口縁



第15図 5号墳出土遺物実測図(1) 銅鏡



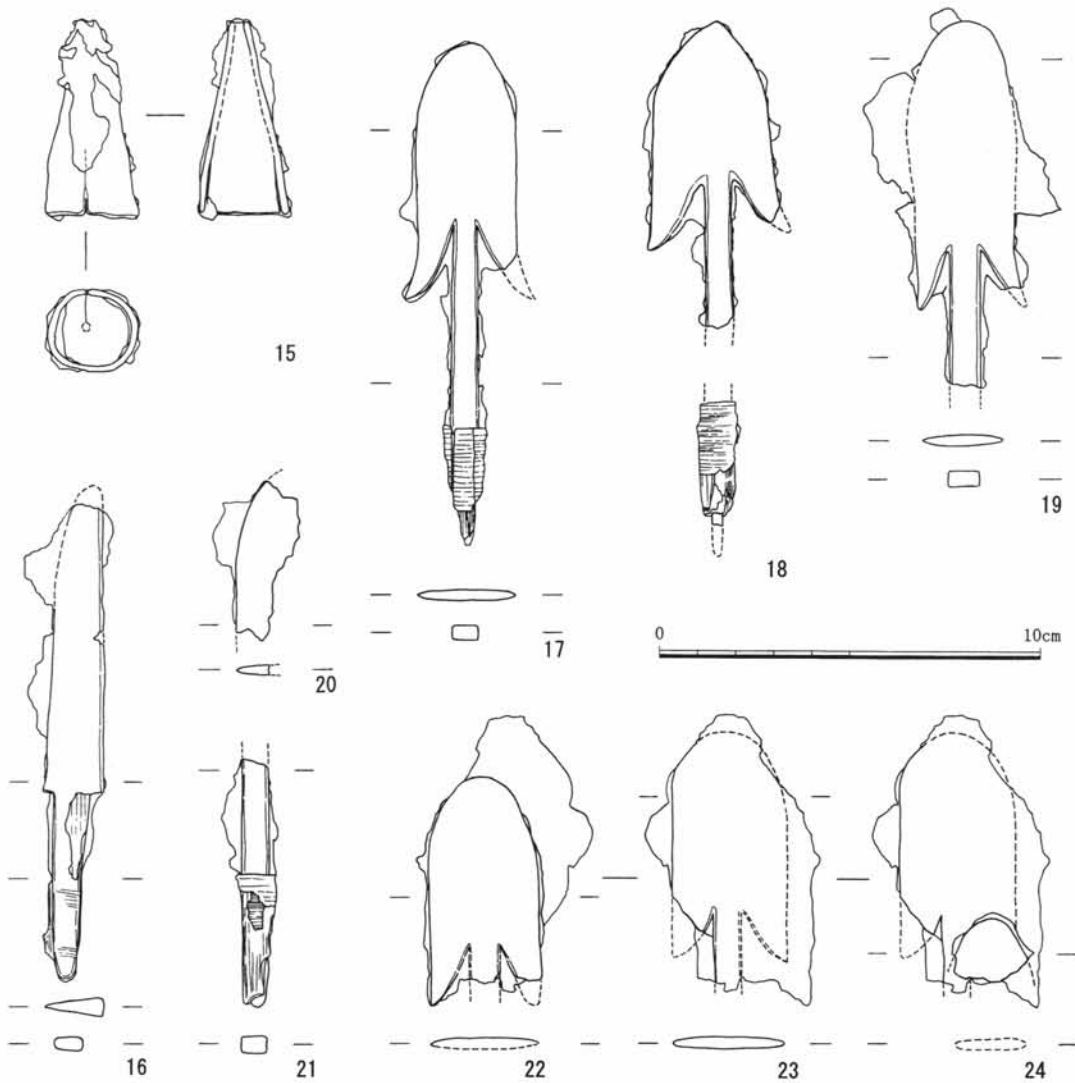
第16図 5号墳出土遺物実測図(2) 玉類・鉄製品



第17図 6号墳出土遺物実測図(1) 土器

部にはヨコナデを施す。体部外面は特に調整を施さない。12~14は須恵器甕である。12は球形の体部に短く外反する口縁部をもち、口縁端部は外側に折り返して玉縁状に丸く納める。タタキ成形で肩部付近はきわめて薄く仕上げられている。13は球形の体部に短く外反する口縁部をもち、口縁端部は上下に拡張して外傾する端面を形成する。12よりはやや肩の張る器形である。14は倒卵形の体部に短く外反する口縁部をもち、口縁端部はやや外側に肥厚する。焼成は甘い。

b. 金属器(第18図) 15は鉄鐸と思われる。北側土器枕の西側の鉄鏝の下から出土した。鉄板を円錐状に丸めており、先端は穴が開いている。上半部は革状のもので覆われ、内面には漆状の皮膜が付着している。舌は出土していない。16は刀子である。北側土器枕の西側に接して出土した。切先を欠くがほぼ完形である。茎部分に木質が遺存している。17~24は大形の腸袂柳葉形鉄鏝である。19は東側の杯蓋から南に10cm余りのところで出土し、他は北側土器枕の西側に接して出土した。17はほぼ完形である。全長13.2cm、刃部長6.7cmを測る。茎には木質が残存し、関部は観察できないが、X線写真によると台形関である。18は長さ6.0cmを測る非対称な刃部をもつ。頸部で折損している。同一個体と思われる茎部に木質が残存している。19は刃部長7.5cmを測る。



第18図 6号墳出土遺物実測図(2) 鉄製品

頸部で折損している。20・21は出土位置から同一個体の破片とみられるが接合しない。22～24はほぼ同形のもので3点銹着している。22の刃部長は6.2cmを測る。銅製品では銅釦が1点出土している。劣化が著しく実測図を提示することができないが、直径約2.4cmの半球形を呈する。

(森島康雄)

5. まとめ

今回は、海岸部と内陸部を結ぶ古代交通の要衝と考えられる谷部を見下ろす位置に築造されている2基の木棺直葬墳を確認した。以下、注目される事項を列記してまとめとしたい。

5号墳からは銅鏡が出土した。5号墳は規模も小さく簡素な古墳である。このような古墳に銅鏡が副葬されていることが注目される。古墳の規模や位置などから、被葬者は在地の有力者と考えられる。そのような被葬者にも銅鏡や豊富な玉類が副葬されるというのは、当時の丹後の豊かさの一端を表出しているものとも考えられよう。

出土した銅鏡は、上記の特徴から、仿製斜縁四神二獸鏡と考えられる。類例としては、岐阜県岩野田2号墳出土鏡や伝鳥取県西伯郡淀江町出土鏡などで、山陰地方からの出土がやや目立つということである。千束古墳群も日本海側の山陰地方に近い地域に位置しており、興味深い。なお、この銅鏡の鏡式、類例、製作年代等については、京都大学名誉教授樋口隆康氏、京都大学人文科学研究所研究員下垣仁志氏からご教示いただいた。記して感謝したい。6号墳は5号墳の直下に築かれているが、築造時期は1世紀余り隔たっている。6号墳の調査では、墳丘の造成に5号墳の裾の一部を直線的に削平して東側の墳丘盛土に用いていることや、墳丘盛土上部に須恵器甕などが置かれていたこと、「H」形の平面形をもつ組合せ式木棺に2遺体が埋葬されていたことなどが判明した。2遺体のうち、北枕の被葬者が鉄鏃や銅釦などの副葬品もっていることや棺底の傾きが南下りであることなどからこの古墳の主たる被葬者であろう。銅釦は、市内弥栄町溝谷の奈具岡北1号墳で2点出土しているほか、府内では京田辺市田辺天神山遺跡に弥生時代後期の例があるのみで、全国的にみても稀少な遺物である。また、鉄鐸は南丹市園部町町田東古墳、南丹市八木町城谷口2号墳について府内で3例目となる。小規模な古墳ながら稀少な遺物を副葬している点で注目される。

(引原茂治・森島康雄)

付表 5号墳出土玉類計測表

通番	種類	法量 (cm・g)				色調	素材・石材	挿図番号	取上番号	備考
		長さ	幅(径)	上・下孔径	重量					
1	勾玉	1.65	0.65	0・16・0.21	1.80	乳黄～明緑色	翡翠	4	T1	頭部厚さ0.58cm
2	勾玉	3.10	1.05	0.15・0.32	6.51	深緑～黒緑色	碧玉	2	T2	頭部厚さ0.95cm
3	勾玉	2.65	0.85	0.18・0.32	3.87	深緑色	碧玉	3	T3	頭部厚さ0.70cm
4	勾玉	2.65	0.95	0.25・0.27	4.19	乳灰～薄緑灰色	翡翠	5	T77	頭部厚さ0.90cm
5	管玉	0.95	0.35	0.15・0.10	0.12	淡緑色	グリーンタフ	13	T4	孔は楕円形
6	管玉	2.40	0.53	0.15・0.20	1.02	淡緑色	グリーンタフ		T5	孔口部一部破損
7	管玉	2.30	0.61	0.20・0.25	1.42	淡緑灰色	グリーンタフ	11	T6	
8	管玉	1.85	0.42	0.15・0.20	0.47	淡緑色	グリーンタフ		T7	孔部楕円形
9	管玉	1.80	0.40	0.20・0.25	0.41	淡緑色	グリーンタフ		T8	
10	管玉	2.35	0.41	0.20・0.25	0.55	淡緑色	グリーンタフ	12	T9	

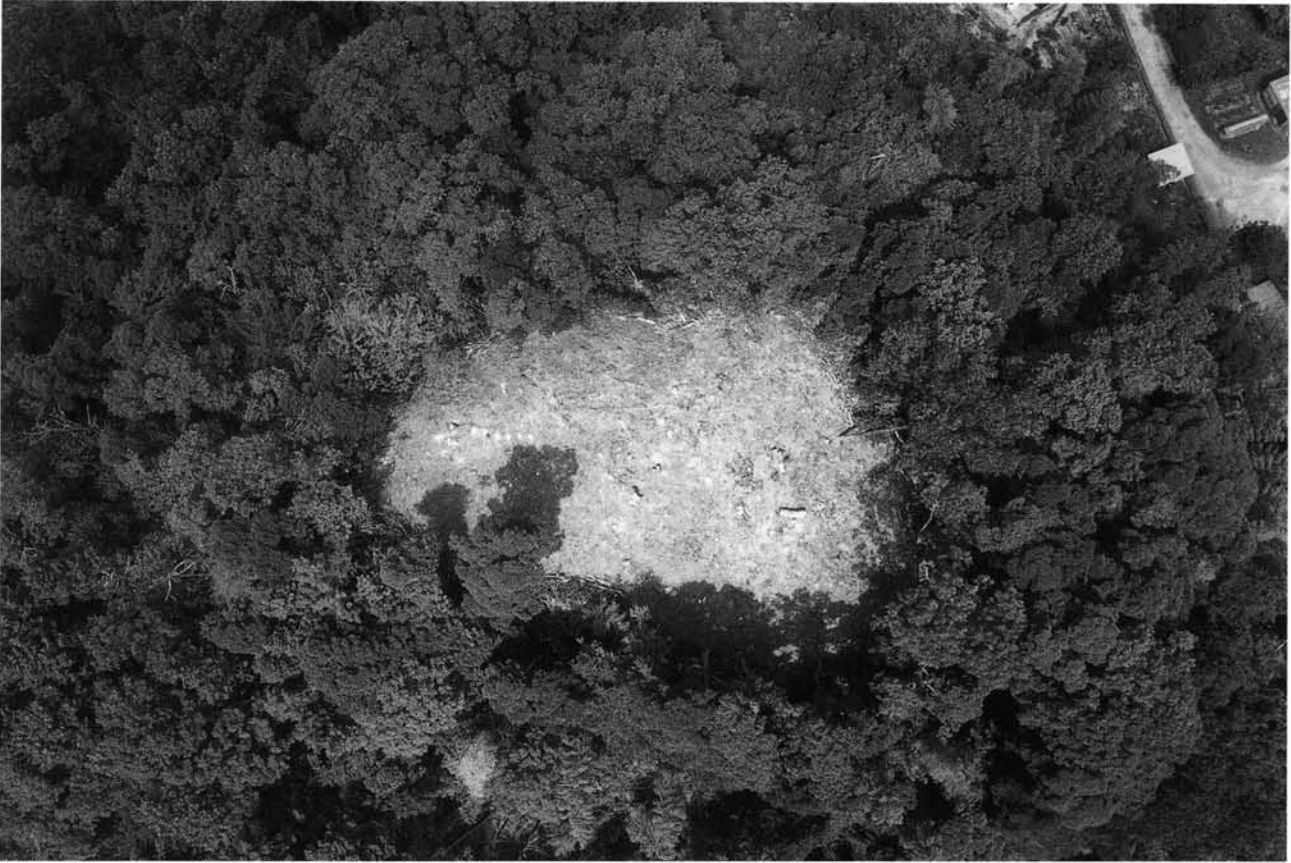
千東古墳群発掘調査報告

11	管玉	2.20	0.61	0.21・0.25	1.31	淡緑色	グリーンタフ		T10	
12	管玉	1.45	0.43	0.17・0.21	0.44	緑色	グリーンタフ		T11	
13	管玉	2.70	0.58	0.30・0.32	1.31	濃緑色	碧玉か		T12	
14	管玉	2.65	0.54	0.23・0.26	1.26	淡緑色	グリーンタフ		T13	
15	管玉	1.65	0.42	0.15・0.18	0.31	淡緑色	グリーンタフ		T14	
16	管玉	1.45	0.50	0.20・0.23	0.65	濃緑色	碧玉か		T15	
17	管玉	1.10	0.34	0.12・0.14	0.20	淡緑色	グリーンタフ		T16	
18	管玉	3.55	0.61	0.34・0.38	1.97	濃緑色	碧玉か		T17	
19	管玉	2.40	0.51	0.17・0.18	1.13	淡緑灰～濃緑色	グリーンタフ		T18	
20	管玉	1.00	0.43-0.46	0.16・0.16	0.33	淡緑灰～濃緑色	グリーンタフか		T19	
21	管玉	0.95	4.70-5.30	0.25・0.26	0.61	淡緑～濃緑色	グリーンタフ		T20	石材層状 断面楕円形
22	管玉	1.90	0.45	0.22・0.23	0.32	淡緑色	グリーンタフ		T21	
23	管玉	2.50	0.45	0.24・0.24	0.70	濃緑灰	蛇紋岩か		T22	石材層状、一部破損
24	管玉	2.10	0.79	0.34・0.38	2.24	濃緑色	碧玉か	7	T23	
25	管玉	1.10	0.61	0.28・0.32	0.88	濃緑色	碧玉か		T24	
26	管玉	1.00	0.50	0.18・0.21	0.64	淡緑灰～濃緑色	グリーンタフか		T25	
27	管玉	2.50	0.55	0.28・0.30	1.30	濃緑色	碧玉か	9	T73	
28	管玉	1.80	0.42	0.16・0.17	0.23	淡緑色	グリーンタフ		T74	
29	管玉	2.25	0.41	0.16・0.17	0.47	淡緑灰色	グリーンタフ		T75	
30	管玉	3.45	0.89	0.34・0.36	4.81	濃緑色	碧玉か	6	T76	孔部楕円形
31	管玉	1.75	0.43	0.21・0.25	0.51	濃緑色	碧玉か	10	T86	
32	管玉	2.45	0.69	0.32・0.34	2.00	濃緑色	碧玉か		T87	
33	管玉	2.45	0.41	0.16・0.18	0.51	淡緑色	グリーンタフ		T88	
34	管玉	2.15	0.46	0.20・0.23	0.69	淡緑灰～濃緑色	グリーンタフか		T111	
35	管玉	0.83	0.43	0.13・0.14	0.17	淡緑色	グリーンタフ		T112	
36	管玉	2.25	0.39	0.11・0.12	0.34	淡緑色	グリーンタフ		T113	接合
37	管玉	1.75	0.67	0.13・0.29	1.43	濃緑色	碧玉か	8	T114	
38	管玉	1.40	0.43	0.18・0.19	0.41	濃緑灰色	蛇紋岩か		T115	石材層状・孔部破損
39	管玉	1.65	0.39	0.19・0.19	0.27	淡緑色	グリーンタフ		T116	
40	管玉	2.10	0.49	0.15・0.17	0.57	淡緑色	グリーンタフ		T117	接合
41	管玉	1.60	0.39	0.16・0.17	0.26	淡緑色	グリーンタフ		T118	
42	管玉	2.55	0.42	0.22・0.22	0.53	淡緑色	グリーンタフ		T119	孔部一部破損
43	管玉	1.85	0.46	0.19・0.21	0.66	濃緑灰	蛇紋岩か	14	T120	石材層状
44	管玉	1.15	0.60	0.28・0.36	0.63	淡緑色	グリーンタフ		T121	孔部楕円形
45	管玉	0.60	0.35	0.17・0.20	0.10	濃青緑	碧玉か		T139	
46	管玉	1.10	0.44	0.23・0.24	0.25	淡緑色	グリーンタフ		T147	孔部一部破損
47	管玉	2.00	0.38	0.12・0.15	0.35	淡緑色	グリーンタフ		T148	錆付着
48	管玉	0.90	0.54-0.59	0.12・0.18	0.79	濃緑色	碧玉か		T158	錆付着
49	管玉	1.25	0.45-0.58	0.18・0.20	0.51	濃緑色	碧玉か		T159	なつめ玉、錆付着
50	白玉	0.17	0.46	0.16	0.06	灰色	滑石		T26	
51	白玉	0.23	0.47	0.15	0.08	灰色	滑石		T27	
52	白玉	0.22	0.44	0.13	0.06	灰色	滑石		T28	
53	白玉	0.25	0.47-0.51	0.17	0.10	灰色	滑石	18	T29	
54	白玉	0.34	0.33-0.42	0.14	0.09	灰色	滑石		T30	稜明瞭
55	白玉	-	-	-	0.03	薄灰色	滑石		T31	破損(6ヶ)
56	白玉	0.30	0.47	0.14・0.15	0.12	濃緑灰色	蛇紋岩か		T32	
57	白玉	0.24-0.29	0.47-0.51	0.13・0.15	0.11	灰色	滑石		T33	歪
58	白玉	0.26	0.51	0.17	0.11	灰色	滑石		T34	
59	白玉	0.16-0.22	0.57	0.16	0.10	灰色	滑石	19	T35	歪
60	白玉	0.24	0.42	0.17・0.18	0.06	灰色	滑石		T36	
61	白玉	0.28	0.43	0.2	0.07	灰色	滑石		T37	
62	白玉	0.40	0.37-0.43	0.17・0.19	0.10	灰色	滑石	20	T38	稜明瞭
63	白玉	0.17	0.53	0.19	0.09	濃灰色	滑石		T39	
64	白玉	0.31	0.44-0.48	0.13・0.15	0.10	薄灰色	滑石		T40	稜明瞭
65	白玉	0.16	0.53	0.19	0.07	薄灰色	滑石		T41	
66	白玉	0.26	0.53	0.16	0.12	濃緑灰色	滑石		T42	
67	白玉	0.27	0.47	0.14	0.10	灰色	滑石		T43	
68	白玉	0.30	0.56	0.13	0.15	灰色	滑石	21	T44	
69	白玉	0.26	0.50	0.13	0.11	濃灰色	蛇紋岩か		T45	
70	白玉	0.20	0.54	0.16	0.10	濃灰色	滑石		T46	
71	白玉	0.31	0.48	0.17	0.12	濃灰色	滑石		T47	やや稜あり
72	白玉	0.24	0.48	0.12	0.09	灰色	滑石		T48	
73	白玉	0.27	0.54	0.16	0.12	灰色	蛇紋岩か		T49	
74	白玉	0.14-0.19	0.15	0.11	0.09	緑灰色	滑石		T50	
75	白玉	0.27	0.52	0.11	0.13	濃灰色	滑石		T51	
76	白玉	0.30	0.55-0.60	0.18	0.17	緑灰色	滑石	22	T52	稜明瞭
77	白玉	0.32	0.44-0.52	0.17	0.14	灰色	滑石		T53	稜明瞭
78	白玉	0.31	0.40-0.44	0.15	0.08	淡緑灰色	滑石		T54	やや稜あり
79	白玉	0.34	0.40-0.45	0.16	0.09	緑灰色	滑石		T55	やや稜あり
80	白玉	0.40	0.44	0.15・0.18	0.11	灰色	滑石	23	T56	稜明瞭
81	白玉	0.28	0.50	0.12・0.14	0.11	灰色	滑石		T57	
82	白玉	0.23	0.46	0.13	0.06	緑灰色	滑石		T58	
83	白玉	0.23	0.43	0.15	0.06	緑灰色	滑石		T59	
84	白玉	0.25	0.54	0.14	0.12	灰色	滑石		T60	
85	白玉	0.27	0.52	0.14	0.12	灰色	滑石		T61	
86	ガラス小玉	0.32	0.62	0.15・0.17	0.13	紺色	ガラス	17	T62	算盤玉形
87	白玉	0.29	0.49	0.13	0.11	濃灰色	滑石		T63	

88	白玉	0.10 - 0.17	0.52	0.17	0.07	濃灰色	滑石		T64	歪
89	白玉	0.31-0.35	0.60	0.15・0.17	0.21	黒色	滑石	26	T65	
90	白玉	0.15	0.47	0.1	0.06	灰色	滑石		T66	
91	白玉	0.26	0.52	0.15	0.12	灰色	滑石		T67	やや稜あり
92	白玉	0.31	0.44	0.13	0.09	濃灰色	滑石		T68	
93	白玉	0.28	0.49	0.16	0.10	黒色	蛇紋岩か		T69	
94	白玉	0.31	0.41	0.15・0.16	0.07	黒色	滑石		T70	
95	白玉	0.31	0.42	0.16・0.21	0.07	黒色	滑石か		T71	
96	白玉	0.27	0.42	0.13・0.17	0.07	灰色	滑石		T72	
97	白玉	0.03-0.12	0.36	0.18	0.01	淡灰色	滑石		T75	計測後破損 (3ヶ)
98	白玉	0.19	0.51	0.12・0.14	0.08	緑灰色	滑石		T78	
99	白玉	0.19	0.57	0.15・0.17	0.10	淡緑灰色	滑石		T79	
100	白玉	0.22-0.26	0.49	0.14・0.18	0.09	灰色	滑石		T80	
101	白玉	0.32	0.40-0.44	0.17・0.19	0.08	淡灰色	滑石		T81	稜明瞭
102	白玉	0.32	0.53	0.17	0.13	濃灰色	滑石		T82	
103	白玉	0.17	0.51	0.17	0.07	灰色	滑石		T83	
104	白玉	0.42	0.44	0.16・0.19	0.12	淡灰色	滑石		T84	
105	白玉	0.22	0.48	0.13・0.16	0.08	灰色	滑石	27	T85	
106	白玉	0.13	0.46	0.11・0.14	0.05	濃灰色	滑石		T89	
107	白玉	-	-	-	0.05	淡緑色	滑石		T90	破損 (2ヶ)
108	白玉	0.14-0.21	0.44	0.14	0.05	淡灰色	滑石		T91	
109	白玉	-	-	-	0.02	濃緑灰色	滑石		T92	破損
110	白玉	0.42	0.41-0.44	0.17・0.21	0.12	灰色	滑石		T93	
111	白玉	0.36	0.56	0.18・0.21	0.17	淡緑灰色	滑石		T94	
112	白玉	0.39	0.40	0.16	0.06	淡灰色	滑石		T95	破損 (2ヶ)
113	白玉	0.31-0.36	0.44	0.20	0.09	淡緑灰色	滑石		T96	
114	白玉	0.29	0.44	0.15・0.17	0.08	淡灰色	滑石		T97	
115	白玉	0.43	0.53	0.15・0.16	0.19	淡灰色	滑石		T98	
116	白玉	0.28	0.50	0.19・0.22	0.10	灰色	滑石		T99	
117	ガラス小玉	0.53-0.62	0.65	0.17・0.19	0.32	青色	ガラス	15	T100	
118	ガラス小玉	0.55	0.61-0.68	0.18・0.20	0.31	青色	ガラス	16	T101	
119	白玉	-	-	-	0.10	灰色	滑石		T102	破損
120	白玉	0.28	0.50	0.18・0.20	0.10	淡灰色	滑石		T103	
121	白玉	0.28-0.32	0.53	0.15・0.17	0.15	灰色	滑石		T104	
122	白玉	0.22	0.44	0.16・0.18	0.07	淡緑灰色	滑石		T105	
123	白玉	0.28	0.54	0.13・0.15	0.14	灰色	滑石		T106	
124	白玉	0.32	0.43	0.18	0.08	淡灰色	滑石		T107	
125	白玉	0.28	0.49	0.12	0.11	灰色	滑石		T108	
126	白玉	0.24	0.51	0.17	0.10	灰色	滑石		T109	
127	白玉	0.18	0.41	0.15・0.16	0.04	暗灰色	滑石	24	T110	
128	白玉	0.37	0.42	0.20	0.07	灰色	滑石		T122	
129	白玉	-	-	-	0.02	淡灰色	滑石		T123	破損
130	白玉	0.22-0.27	0.42	0.15・0.16	0.07	灰色	滑石		T124	
131	白玉	0.26-0.3	0.59	0.16・0.18	0.11	灰色	滑石		T125	
132	白玉	0.31-0.4	0.60	0.12・0.18	0.22	淡灰色	滑石		T126	
133	白玉	0.37	0.42	0.18	0.08	淡灰色	滑石		T127	
134	白玉	0.50	0.42	0.20	0.11	淡灰色	滑石		T128	
135	白玉	0.37-0.41	0.44	0.18・0.19	0.11	淡灰色	滑石		T129	やや稜あり
136	白玉	0.49	0.50-0.55	0.21	0.22	淡灰色	滑石	25	T130	
137	白玉	-	-	-	0.09	淡灰色	滑石		T131	破損 (3ヶ)
138	白玉	0.37	0.40-0.44	0.16・0.20	0.10	淡灰色	滑石		T132	やや稜あり
139	白玉	0.16-0.23	0.54	0.16・0.21	0.10	淡灰色	滑石		T133	歪
140	白玉	0.26	0.48	0.14・0.15	0.08	灰色	滑石か		T134	
141	白玉	0.27	0.53	0.15	0.12	灰色	滑石		T135	
142	白玉	0.31-0.36	0.42-0.52	0.15・0.16	0.15	灰色	滑石		T136	稜明瞭
143	白玉	0.25-0.31	0.53	0.16・0.17	0.14	淡灰色	滑石		T137	歪
144	白玉	0.30	0.53	0.16	0.13	灰色	滑石		T138	
145	白玉	0.30	0.51	0.13・0.17	0.12	濃灰色	滑石		T140	
146	白玉	0.15	0.42	0.18	0.04	灰色	滑石		T141	
147	白玉	0.33	0.50-0.54	0.15・0.18	0.14	淡灰色	滑石		T142	
148	白玉	0.30	0.53	0.15	0.13	濃灰色	滑石		T143	
149	白玉	0.41	0.43	0.2・0.21	0.09	灰色	滑石		T144	
150	白玉	0.23	0.51	0.16・0.18	0.10	濃灰色	滑石		T145	
151	白玉	0.28-0.35	0.39-0.45	0.16	0.08	灰色	滑石		T146	楕円形
152	白玉	0.23	0.44	0.15・0.17	0.06	黒色	蛇紋岩か		T149	
153	白玉	0.26	0.48	0.17・0.19	0.09	淡灰色	滑石		T150	
154	白玉	0.21	0.48	0.14・0.15	0.08	濃灰色	蛇紋岩か		T151	
155	白玉	0.29	0.50	0.16・0.17	0.12	緑灰色	滑石		T152	
156	白玉	-	-	-	0.04	淡灰色	滑石		T153	破損
157	白玉	0.36	0.42	0.19・0.20	0.08	淡灰色	滑石		T154	
158	白玉	0.33-0.38	0.39-0.44	0.18・0.19	0.09	淡灰色	滑石		T155	歪
159	白玉	0.41	0.43	0.18	0.11	淡灰色	滑石		T156	
160	白玉	0.33	0.42	0.16・0.18	0.09	淡灰色	滑石		T157	孔部片側破損
161	白玉	0.25	-	-	0.03	淡灰色	滑石		T158	

石材については、肉眼観察によるもので分析したものではない。
長さ及び幅については、肉眼で見て明らかに歪なもののみ、範囲で示した。

圖 版



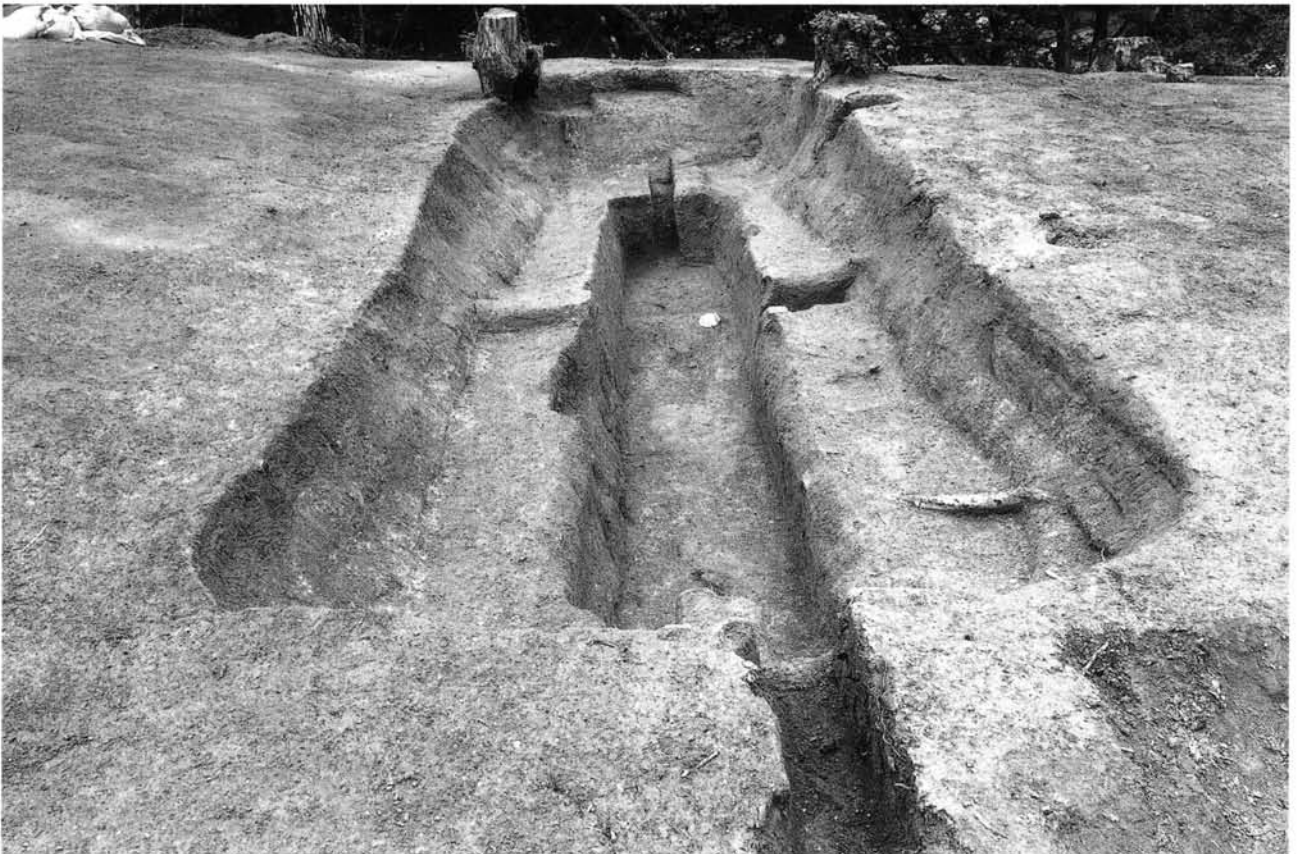
(1) 西尾根地区調査前全景(空撮、右上が北)



(2) 調査地遠景(空撮、北から)



(1) 西尾根地区調査地全景(空撮、右上が北)



(2) 5号墳埋葬施設全景(南東から)



(1) 5号墳埋葬施設玉類出土状況
(南東から)



(2) 5号墳埋葬施設銅鏡等
出土状況(南東から)



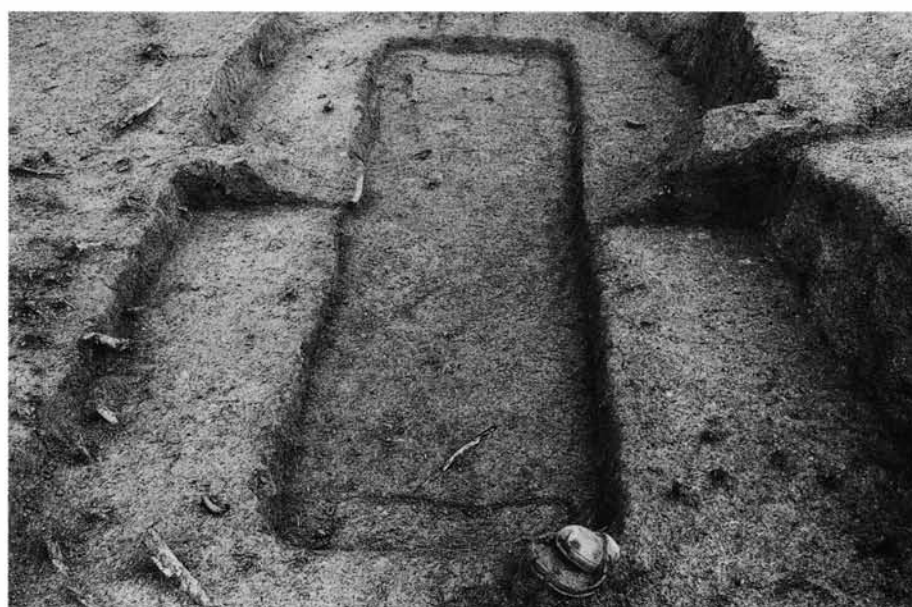
(3) 5号墳埋葬施設完掘状況
(北西から)



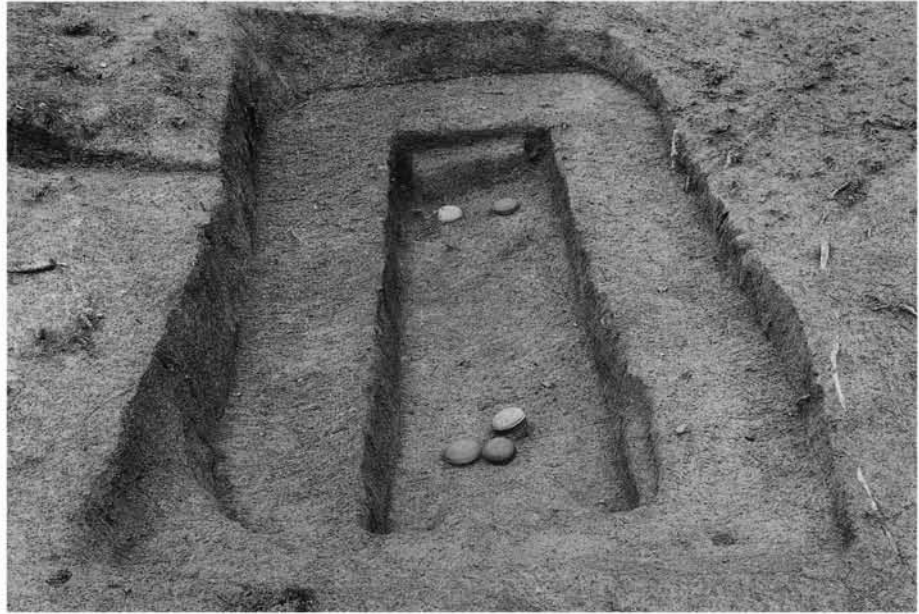
(1) 6号墳墳丘上面遺物出土状況
(東から)



(2) 6号墳墳丘上面遺物出土状況
(西から)



(3) 6号墳木棺痕跡検出状況
(北から)



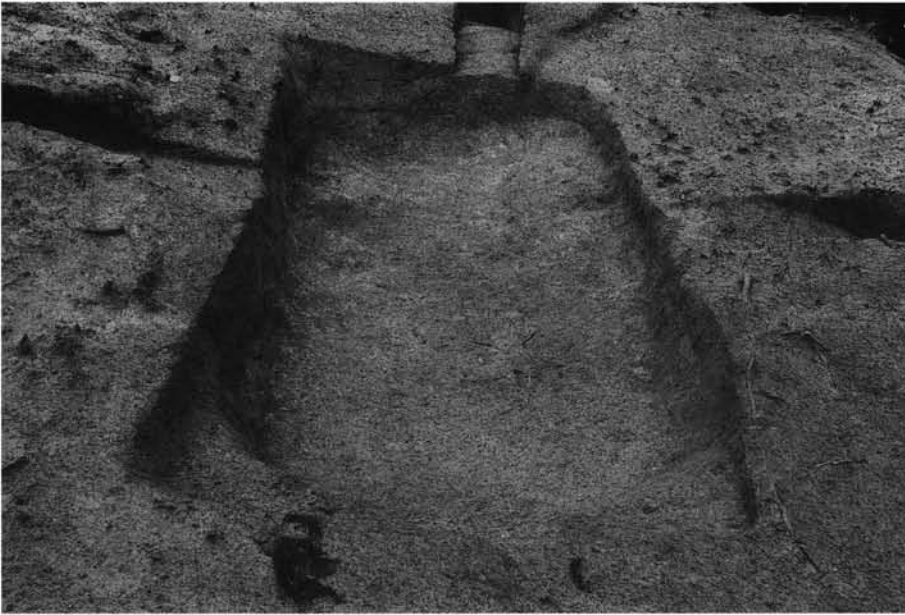
(1) 6号墳埋葬施設全景(南から)



(2) 6号墳埋葬施設須恵器
出土状況(北から)



(3) 6号墳埋葬施設鉄製品
出土状況(西から)



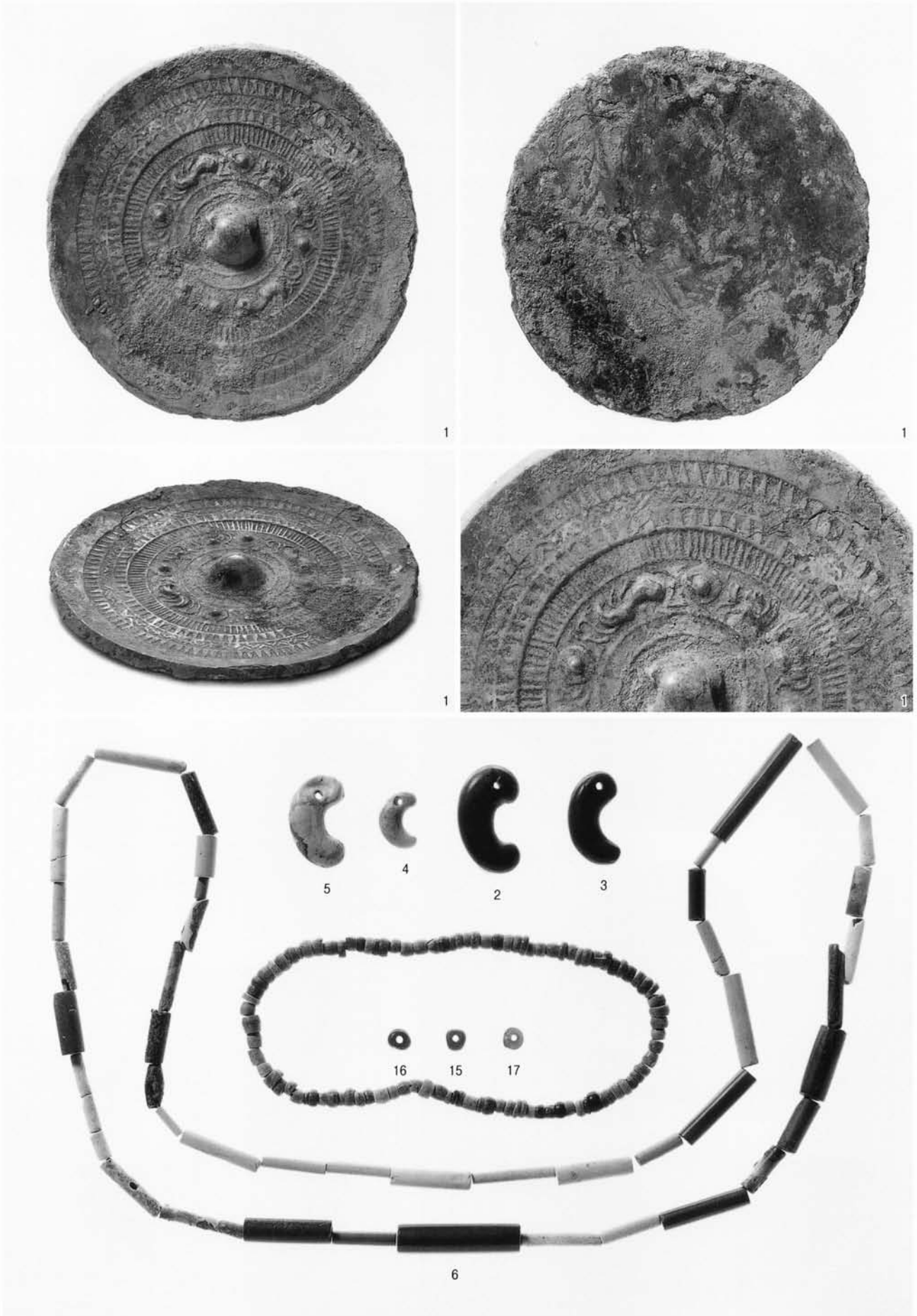
(1) 6号埋葬施設完掘状況
(南から)



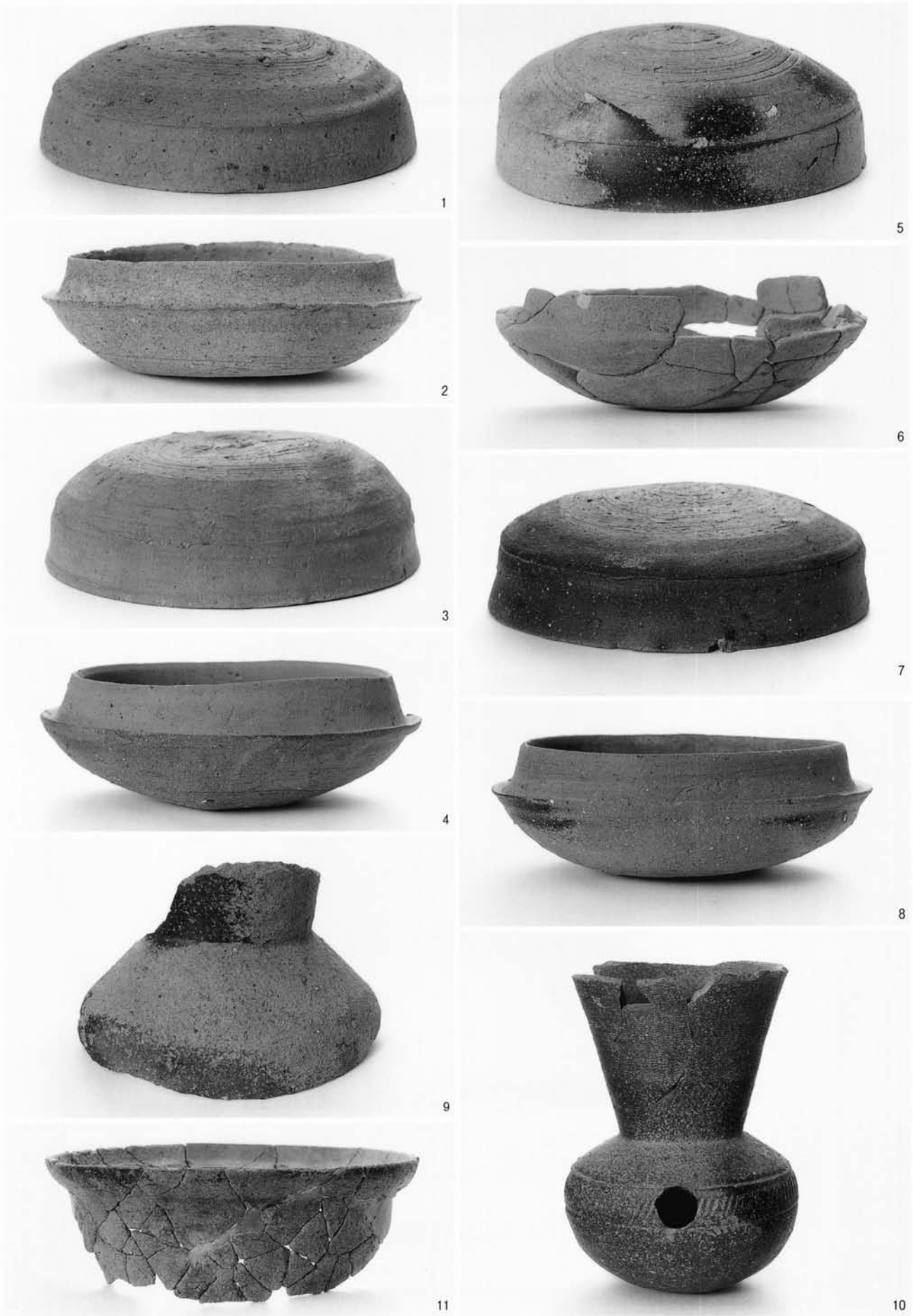
(2) 東尾根地区調査地全景
(空撮、上が北)



(3) 東尾根地区4区全景
(南西から)



5号墳出土遺物



6号墳出土遺物1(土器)



12



13



14



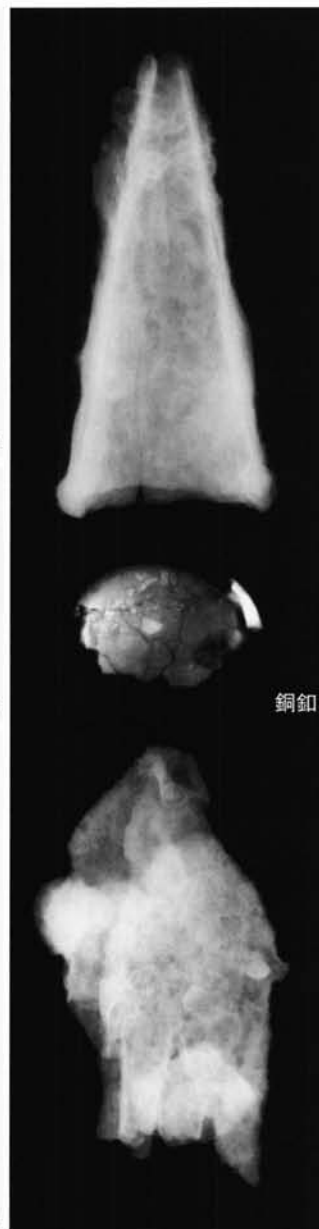
15



15

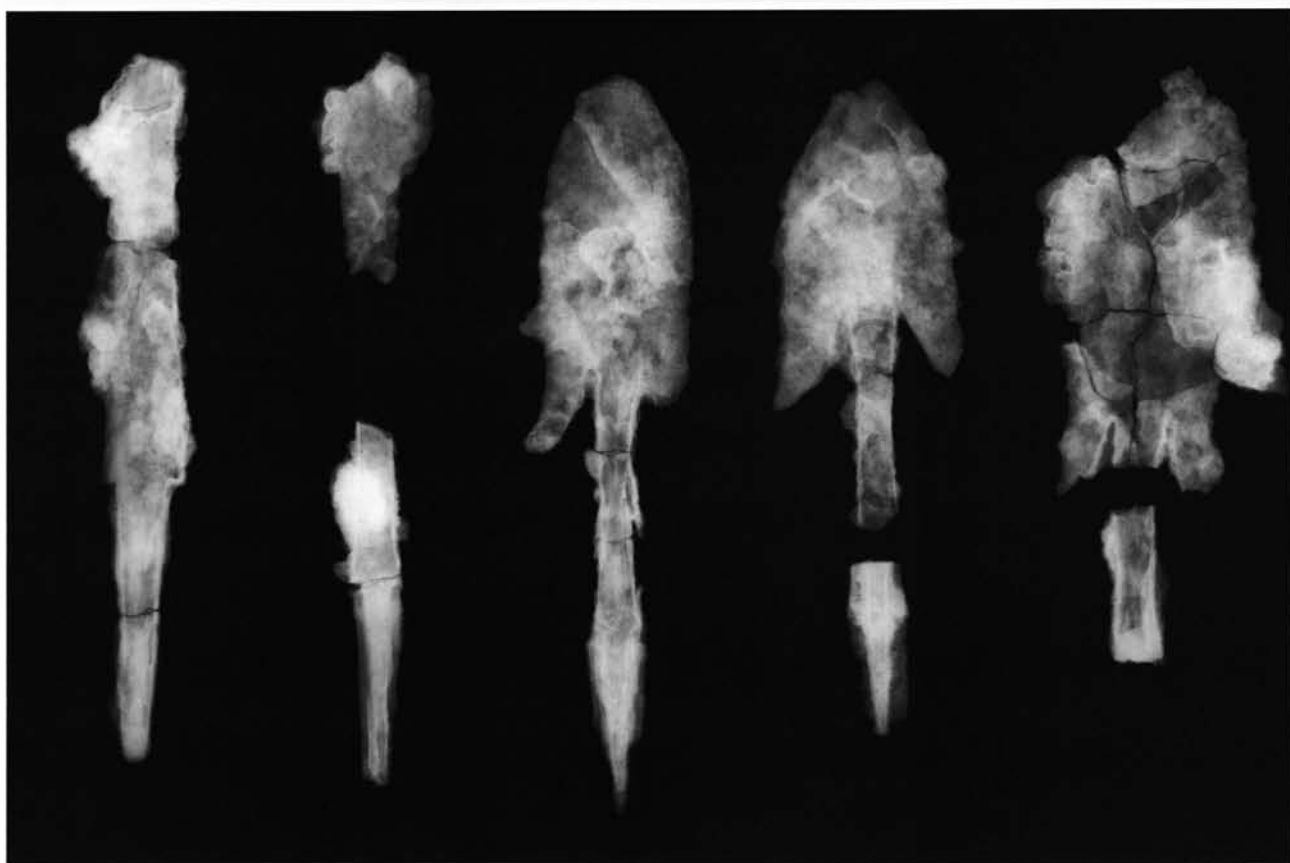
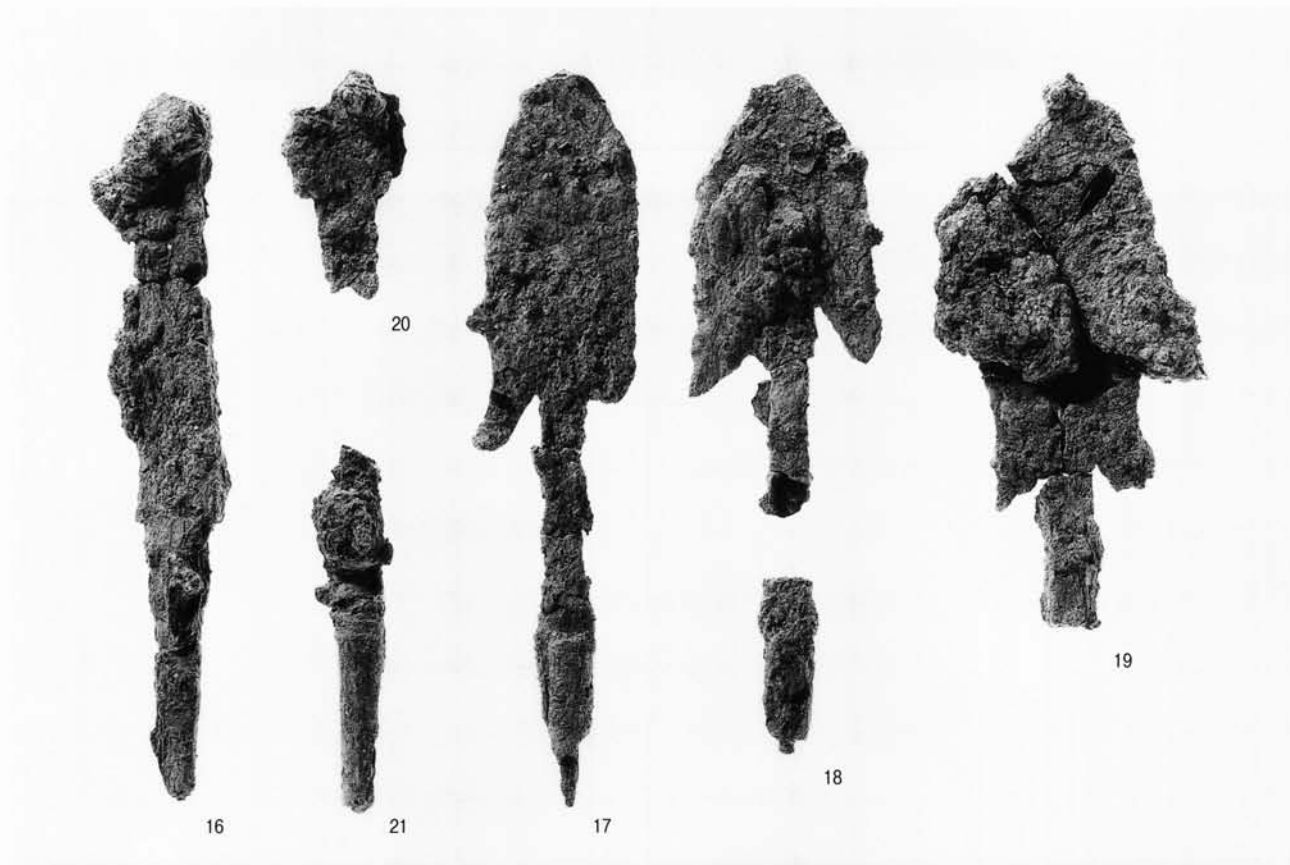


22~24



銅釘

6号墳出土遺物2(土器・鉄製品・銅釘)、5号墳出土銅鏡



6号墳出土遺物3(鉄製品)